

「家族療法基礎講座」開講のお知らせ

一般社団法人日本家族療学会は、家族療法の普及と人材育成を目指し、研修体制を完成するべく取り組んでおりますが、「家族療法基礎講座」は、その一環として開講されたものです。本講座は以下の9講座で構成されます。各講座の講師は、その領域の第一人者に務めていただき、『家族療法テキストブック』に沿って、家族療法の基礎理論や基礎概念を学べる内容になっております（この基礎講座は、「認定ファミリーセラピスト」の認定取得要件となります）。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、2023年度からは、家族療法の普及と幅広い参加を促すためにZoomでのオンライン開催となりました。ウェブサイト上の「オンライン開催にあたっての注意事項」をお読みの上、ご参加ください。

●2025年度「家族療法基礎講座」プログラム

第1回	5月18日（日）10:00～16:00	①「家族療法概論—基礎理論と歴史」
第2回	6月8日（日）10:00～16:00	②「多世代伝達モデル」
第3回	7月13日（日）10:00～16:00	③「構造的モデル」
第4回	10月5日（日）10:00～16:00	④「コミュニケーション・モデル」
第5回	11月16日（日）10:00～16:00	⑤「ミラノ・システムック・モデル」
第6回	12月14日（日）10:00～16:00	⑥「対象関係論的・力動精神医学モデル」
第7回	1月25日（日）10:00～16:00	⑧「家族心理教育」
第8回	2月15日（日）10:00～16:00	⑦「ナラティブ・セラピー」
第9回	3月8日（日）10:00～16:00	⑨「バイオサイコソーシャル・モデル」

●会場 Zoomによるオンライン開催

●定員 30名程度

●参加費 [各回] 会員 6,000円／非会員 9,000円 申し込み後、開催期日の1週間前までに参加費をお振り込みください。振り込みが確認できない場合には参加申し込みは無効となりますのでご注意ください。

●申込方法 日本家族療学会ウェブサイトのフォームからお申し込みください

（www.jaft.org→「お知らせカテゴリー」→「家族療法基礎講座」）。開催日の3日前までにURLと資料をお送りいたします。Zoomへは参加者本人のお名前でないとう室できませんのでご注意ください。

※この講座は臨床心理士のポイントになります。

●お問合せ先 一般社団法人 日本家族療学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550／FAX: 03-6267-4555／E-mail: maf-jaft@mynavi.jp

○「家族療法基礎講座」内容

講座番号①「家族療法概論―基礎理論と歴史」

〔講師〕 榎林理一郎、市橋香代

内容―家族療法とはどのような臨床領域なのか、概論および基礎理論と歴史を学ぶ。

講座番号②「多世代伝達モデル」(多世代家族療法)

〔講師〕 福山和女

内容―多世代家族療法は、マレー・ボウエンが体系化した家族システム論の諸概念を適用し多世代の家族を視野に入れた家族療法である。ジェノグラムや家族ライフサイクルの視点を加味している。講座では、ボウエンの家族システム論に基づき、主要な五つの概念を理解する(三角関係、分化度、情動システム、家族投影プロセス、多世代伝承プロセス)。ジェノグラムを用いた多世代家族療法のDVDを聴取しながら、このアプローチのエッセンスを共に考えたい。

講座番号③「構造的モデル」(構造派の家族療法)

〔講師〕 吉川 悟

内容―構造的モデルは、サルバドル・ミニューチンがP.C.G.C.で創始したアプローチである。設立時の影響を示しつつ、構造的モデルの鍵となる諸概念と、具体的な介入の特徴について解説する。その上で、構造的モデルの基本となる面接場面を解説しながら、介入の象徴とされているhere & Nowの実際を示す。

講座番号④「コミュニケーション・モデル」

〔講師〕 村上雅彦

内容―コミュニケーション・モデルは、コミュニケーション理論を中核として、ミルトン・エリクソン(Erickson.M)の技法を取り入れた独特の介入技法を持ったアプローチです。家族療法テキストブックに沿って講義・演習を行います。

講座番号⑤「ミラノ・システムック・モデル」

〔講師〕 吉川 悟

内容―ミラノ・システムック・モデルは、MRIの方法論の発展であり、現在最も注目されている「オープンダイアログ」の入り口です。複雑な手続きと、理論的背景を持つアプローチですが、できるだけ簡便に現代的な活用を前提として、要点を演習します。

講座番号⑥「対象関係論的・力動精神医学的モデル」

〔講師〕 渡辺俊之

内容―外的、現実的家族に介入するとき、家族メンバーの心にある対象関係も動きます。狩野は、家族療法家はシステム論と力動精神医学の二つの視点による複眼視的などらえ方が治療の幅を広げると述べました。心の中にある父親表象や母親表象が現実の家族や生活の中でどのように作用するかを一緒に考えていきましょう。

講座番号⑦「ナラティブ・セラピー」

〔講師〕 坂本真佐哉

内容―ナラティブ・セラピーは、オーストラリアのマイケル・ホワイトとニュージーランドのデビッド・エプストンによって創始され、世界中で発展し続けている心理援助です。セラピストはクライアントに敬意を払い、新たなストーリーを構築するためのプロットを共に探索する役割であると考えられます。そのような会話のプロセスを提供するために知っておきたい考え方や姿勢などについて学ぶ機会になればと思います。

講座番号⑧「家族心理教育」

〔講師〕 後藤雅博

内容―家族心理教育は、様々な持続的な困難を抱える家族を支援するための構造化されたプログラムです。その構造は、問題についての情報を共有すること(教育的部分)と問題から生ずる困難さに対処する技能を学ぶこと(対処技能部分)からなり、目標を家族のエンパワメントにおくことが特長です。講座は講義と演習からなり、家族グループおよび単家族への心理教育を学びます。

講座番号⑨「バイオサイコソーシャル・モデル」

〔講師〕 渡辺俊之、上別府圭子

内容―システム理論をベースにしたバイオサイコソーシャル(BPS)な視点からの対象理解は、医療、看護、福祉、教育などすべての領域で重要となります。エンゲルが唱えたバイオサイコソーシャルアプローチを家族療法、家族看護の立場から紹介します。また、演習として参加者自身のジェノグラムワークを実施します。